



# あけの

学校教育目標 「心身ともに健康で、個性豊かな実践力のある子どもを育てる」

～ 困いさつ 図うじ 図んきょう 3つの「あそべ」をがんばろう ～

## ◇行事を通して…◇

後期に入ってから、チャリティーコンサート、文化祭、学校公開デー等の行事がありました。チャリティーコンサートで4年生が歌った「君をのせて」「南風にのって」の歌声には一人ひとりの心がこもっていて、来ていただいた地域の皆さんが感動する素晴らしいものでした。子どもたちは、これらの行事に真剣に取り組むことで、自分の役割を自覚することの大切さや友達と協力して作り上げることの喜びや達成感などを経験し、大きく成長してきました。また、色々な作品展やコンクールなどにも積極的に出品し、自分の得意な分野で良い結果を残すことができた子どももいました。こういった子どもたちの頑張りは、支えていただいた保護者や地域の皆さんのご協力のおかげでもあります。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



4年チャリティーコンサート

## ◇文化祭◇ 11月11日(土)

文化祭には朝早くから、保護者・地域の方には多数ご来校いただきありがとうございました。

午前中は作品展の見学、劇団うりんさんの演劇鑑賞、午後からは児童会行事で4年生の合唱、ソーランクラブの発表、児童会主催のレクリエーションを行いました。子どもたちも文化祭に向けて一生懸命、準備や練習を積んできました。子どもたちの作品、発表等、ゆっくりご覧いただけましたでしょうか？

また、食券の売り上げやバザーにもご協力いただきありがとうございました。心に残る文化祭にすることができました。



劇団うりんこ

## ◇学校開放デー◇ 11月24日(金)

学校公開デーにもたくさんの保護者の方がご来校いただきました。1年生では2限目は算数の合同授業や3・4限目は伊勢保健所の「動物とともに」「命を考えよう」の出前授業を行いました。3年生は2～4限目にかけて手話教室。5年は総合的な学習の時間に「水土里プロジェクトおばた」の協力で餅つきを行いました。午後からは全校で人権集会を行いました。内容は人権標語の学年代表の表彰、児童参加型イベント、一人一鉢運動の花の受け渡し式でした。児童会の取り組みで、少しでも人権について深く考えるきっかけになったのではないかと思います。



5年 餅つき

### 【校内人権標語コンクール学年代表の人権標語】

1年代表 奥野 史都さん 「あいさつをすれば みんなぽかぽか すてきなまほう」

2年代表 竹内 理桜さん 「えがおはね みんなをまもる ヒーローだ」

3年代表 村井 緋紗希さん「家族はね 幸せくれる うれしいな」

(裏につづく)

4年代表 溝川 慶之さん 「あいさつは エールをおくる ひとことだ」  
 5年代表 東川 百香さん 「手をつなぎ ただそれだけで あたたかい」  
 6年代表 野中 琉登さん 「友だちは 大人になっても 宝物」



1年 伊勢保健所出前授業



3年 手話教室



人権標語表章式

## ◇子どもは大人の鏡◇

『子どもは大人の鏡』 ドロシー・ロー・ノルト 作

子どもは、批判されて育つと人を責めることを学ぶ  
 子どもは、憎しみの中で育つと人と争うことを学ぶ  
 子どもは、恐怖の中で育つとオドオドした小心者になる  
 子どもは、憐れみを受けて育つと自分を可哀想だと思ようになる  
 子どもは、馬鹿にされて育つと自分を表現できなくなる  
 子どもは、嫉妬の中で育つと人をねたむようになる  
 子どもは、ひけめを感じながら育つと罪悪感を持つようになる  
 子どもは、辛抱強さを見て育つと耐えることを学ぶ  
 子どもは、正直さと公平さを見て育つと真実と正義を学ぶ  
 子どもは、励まされて育つと自信を持つようになる  
 子どもは、ほめられて育つと人に感謝するようになる  
 子どもは、存在を認められて育つと自分が好きになる  
 子どもは、努力を認められて育つと目標を持つようになる  
 子どもは、皆で分け合うのを見て育つと人に分け与えるようになる  
 子どもは、静かな落ち着いた中で育つと平和な心を持つようになる  
 子どもは、安心感を与えられて育つと自分や人を信じるようになる  
 子どもは、親しみに満ちた雰囲気の中で育つと生きることは楽しいことだと知る  
 子どもは、まわりから受け入れられて育つと世界中が愛であふれていることを知る。

あなたの子どもはどんな環境で育っていますか？

## ◇いよいよ冬休み…日本の伝統的な行事について調べよう◇

いよいよ23日(土)から冬休みに入ります。年末・年始には、日本に古くから伝わる色々な行事が行われます。年末には各地の神社やお寺で「すす払い」が行われたり、お正月に備えて「しめ縄」を替えたり「餅つき」が行われたりします。大晦日には全国のお寺で「除夜の鐘」がつかれたり、「年越しそば」を食べたりする習慣もあります。また、新年になると「おせち料理」や「お雑煮」を食べて「初詣」に行き、「お年玉」をもらったりもします。「かるた」や「百人一首」「すごろく」などの遊びをする家庭もあるのではないのでしょうか。

昔から続いてきたこれらの伝統的な行事や遊びは、日本の大切な文化です。こういった行事や遊びの意味について考えてみたり調べてみたりしてはいかがでしょうか？年末・年始は1年間の中でも最もあわただしい時期です。「冬休みの生活」のプリントをお子様と一緒に読んでいただき、交通事故などに注意して、元気で正月をお迎えください。1月9日(火)に元気に登校してくれることを願っています。

この詩を書いたのは、アメリカ・ロサンゼルス出身のドロシー・ロー・ノルト博士です。2005年に亡くなるまで、40年以上にわたって『家族について』の講習や親子関係の研究を続けていました。ドロシー博士は、この詩についてこう語っていました。

「良いことも悪いことも、子どもは一番の見本である『親』を見て学習します。愛する子どもには幸せな人生を歩んでもらいたい。そのためには、親が自らの行動が子どもの『鏡』となっていることに気づくべきなのでしょう。」

自分の姿を、子どもにどのように見られているのか、ハッとさせられます。「どうしてうちの子はこうなんだろう？」と悩んだ時に、読んでみると納得する言葉ではないでしょうか。